

平成21年度第2回 鳥取市政懇話会「地域産業活性化」部会 議事概要

1 日 時 平成21年11月17日(火)午後3時10分～4時

2 会 場 鳥取市役所本庁舎4階第2会議室

3 出席者 委員(7名)

羽場企画推進部長、福田農業振興課長、経済戦略課 黒田主事、
企画調整課 松本

4 議事概要(委員の発言、市の発言)

(1) 農商工連携を推進するうえで必要なことについて

農林水産資源、企業、大学、商工会議所、農協などの連携推進の仕組み
例えば、

- ・農協は生産、加工、販売を既に行っている(酒米生産者、酒造業者と契約し、酒を販売する。)。ここに企業や大学が加わり、商品パッケージ、ネーミングを企業、品質保証を大学が行うなど、売れる商品に。
- ・建設業が農業に参入するなど異業種参入の成功事例あり(新潟県)
新しいものではなく、今ある資源に付加価値を付ける(長期的な取組)

シーズを汲み上げる仕組み

各主体が共同して商品開発する仕組み(付加価値を高める)

販路開拓、PR(知名度を高める 価格の高さに繋がる)

コーディネーターの必要性

人材育成、主体となる団体組織の強化策

(2) 鳥取市版農商工連携の事例について

砂丘観光の新しい魅力アップ

例：遠山正瑛氏の由来の地、乾燥地研究センターとの連携による国際的な取組
砂漠つながりで、モンゴルにあるゲルを建て(ホテルとしても活用可能)、
ジンギスカンを食べる。

特産品であるらっきょう、20世紀梨などを活用した商品開発

竹林を活用した健康食品の開発 健康食品の開発には医学部との連携

遊休農地の活用策(雇用創出にも繋がる)

地域ごとに特産品を持つようにする。(河原町では、農産物(ねぎ、ブロッコリー)を決めて農業者を募集している。)

(3) 今後の部会の協議について

鳥取スタイル(オリジナル)の農商工連携の推進について、そのシステム論と具体的な事例を提案する。

鳥取市では、中山間地域の活性化に向け、重点的に取り組んでいる。「鳥取らしさ、ならでは」を全国発信できるような視点でご議論いただきたい。

(4) 次回部会について

次回の部会では、商工会議所農商工連携推進室の農商工連携マッチング推進員から現状報告をいただく。

(5) その他

次回の部会開催時間は、16時30分までとする。